



Title	清水誠教授 略歴・業績
Citation	言語科学研究, 1, 1-11
Issue Date	2024-03-29
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/91823
Type	other
File Information	1_01-biography.pdf



[Instructions for use](#)

清水 誠 教授 略歴・業績

* 学歴

- 1958年5月3日 横浜市生まれ 静岡県駿東郡清水町に育つ
- 1977年3月 静岡県立韮山高校卒業
- 1977年4月 東京大学 文科Ⅲ類入学
- 1979年4月 東京大学 文学部独文科進学
- 1981年3月 東京大学 文学部独文科卒業
- 1981年4月 東京大学大学院 人文科学研究科修士課程入学（独語独文学専修課程）
- 1983年3月 東京大学大学院 人文科学研究科修士課程修了（同上）

* 学位

2003年12月 博士（文学）（北海道大学）

論文博士学位請求論文：「西フリジア語文法—現代北海ゲルマン語の体系的構造記述とゲルマン語類型論構築のための基礎的研究」（A4判 13+838 pp.）

(<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/32659>)

* 職歴

- 1983年4月 東京大学助手（教養学部 外国語学科ドイツ語教室）
- 1985年4月 千葉大学講師（教養部 ドイツ語教室）
- 1987年4月 北海道大学助教授（文学部 文学科独語学講座）
- 1995年4月 北海道大学助教授（文学部 西洋言語学講座）
- 2000年4月 北海道大学助教授（大学院文学研究科 西洋言語学講座）
- 2000年9月 北海道大学教授（同上）
- 2019年4月 北海道大学教授（大学院文学研究院 言語科学講座言語科学研究室）
- 2022年4月 北海道大学特任教授（同上）（現在に至る）

* 在外研究歴

- 1988年1~3月 ドイツ ゲーテ・インスティトゥート シュヴェービシュ・ハル（Goethe-Institut Schwäbisch Hall）（Goethe-Institut 奨学金）
- 1988年9月~1989年9月 ドイツ ケルン大学北欧語学科（Nordisches Institut, Universität zu Köln）（ドイツ学術交流会（DAAD）奨学金）
- 1989年9月~1990年9月 ドイツ キール大学北フリジア語辞書編集所（Nordfriesische Wörterbuchstelle, Christian-Albrechts-Universität zu Kiel）（ドイツ学術交流会（DAAD）奨学金）、スウェーデン ウプサラ大学（Uppsala universitet）留学生センター
- 1993年9月~1994年9月 オランダ フローニンゲン大学フリジア語学科（Fries Instituut, Rijksuniversiteit Groningen）（オランダ政府奨学金（NUFFIC））、アイスランド アイスランド大学シーグルズル・ノルダル研究所（Stofnun Sigurðar Nordals, Háskóli Íslands）

***受賞歴**

- 1985年 第25回ドイツ語学文学振興会奨励賞（財団法人ドイツ語学文学振興会）（受賞対象：論文1）
- 1994年 オランダ学士院フリスケ・アカデミー会員任命（lid fan de Fryske Akademy, KNAW）（任命理由：北および西フリジア語の業績）
- 2003年 オランダ在外フリジア人協会（It Frysk Boun om Utens）特別会員
- 2008年 第5回日本独文学会賞（日本独文学会）（受賞対象：論文67）
- 2014年 第11回日本独文学会賞（日本独文学会）（受賞対象：著書6）

***学会委員歴**

- 2010年4月～2016年3月 北海道ドイツ文学会 幹事
- 2010年5月～2012年4月 日本アイスランド学会 会長
- 2011年5月～2013年5月 日本独文学会 機関誌編集委員会 編集委員
- 2012年4月～2015年12月 日本歴史言語学会 理事
- 2013年4月～2014年3月 日本独文学会賞選考委員会 副委員長
- 2013年5月～2017年5月 日本独文学会 機関誌編集委員会 副編集長
- 2014年4月～2015年12月 日本歴史言語学会 会計委員長
- 2018年4月～2019年3月 北海道ドイツ文学会 幹事
- 2018年4月～2022年11月 北海道大学ドイツ語学・文学研究会 会長
- 2019年4月～2021年3月 北海道ドイツ文学会 会長
- 2019年6月～2021年5月 日本独文学会北海道支部 支部長
- 2019年8月～2019年9月 Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo, Sektionsleiter
- 2019年8月～2021年3月 Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo, Mitglied des Redaktionskomitees für den Tagungsband

***著書（単著）**

1. 『現代オランダ語入門』（別売CD付）大学書林 2004. viii + 324 pp.
2. 『西フリジア語文法—現代北海ゲルマン語の体系的構造記述』北海道大学出版会 2006. xxi + 799 pp.（日本学術振興会 科学研究費補助金 研究成果公開促進費：全額）
3. 『オランダ語のしくみ』白水社 2007. 144 pp.
4. 『ゼロから話せるオランダ語』三修社 2008. 169 pp.
5. 『北欧アイスランド文学の歩み—白夜と氷河の国の六世紀』現代図書 2009. x + 427 pp.（北海道大学大学院文学研究科 一般図書刊行助成：一部）
6. 『ゲルマン語入門』三省堂 2012. 213 pp.（第11回日本独文学会賞受賞）
7. 『オランダ語のしくみ《新版》』白水社 2014. 146 pp.
8. 『オランダ語の基本』三修社 2019. 382 pp.
9. 『ゲルマン語歴史類型論』北海道大学出版会 2022. vi + 330 pp.（北海道大学大学院文学研究院 研究叢書刊行助成：全額）
10. 『ゲルマン諸語のしくみ』白水社 2024. 505 pp.（公益財団法人ドイツ語学文学振興会 刊行助成：一部）

*著書 (編著)

1. 『アイスランドの言語、神話、歴史—日本アイスランド学会 30周年記念論文集』(清水 誠 (編)) 麻生出版 (担当: アイスランド語の音韻とカナ表記) 2011: 49-106. (北海道大学大学院文学研究科 一般図書刊行助成: 一部)

*著書 (共著)

1. 『ドイツ言語学辞典』(岩崎英二郎/池上嘉彦/F. フンツヌルシャー (編)) 紀伊國屋書店 (担当: 歴史言語学の項目) 1994.
2. 『ドイツ語学研究 2』(千石 喬/川島淳夫/新田春夫 (他著)) クロノス (担当: 北フリジア語モーリング方言の音韻) 1994: 445-503.
3. 『新コンサイス独和辞典』(早川東三 (編)) 三省堂 (担当: 一般語 約 2万 5千語) 1998.
4. *Kontrastive Studien zur Beschreibung des Japanischen und des Deutschen* (H. Nitta/M. Shigeto/G. Wienold (Hrsg.)) München: iudicium (担当: Zum Wortfeld der Modalverben im Deutschen) 1999: 213-228.
5. 『世界のことば100語辞典』(石井米雄 (編)) 三省堂 (担当: オランダ語、アイスランド語) 1999.
6. 『新わかるドイツ語 基礎編』(常木 実 (著)) 三省堂 (担当: 正書法の改訂および「新正書法と旧正書法の相違について」) 2001: 142-145.
7. 『世界のことば・出会いの表現辞典』(石井米雄 (編)) 三省堂 (担当: オランダ語、アイスランド語) 2004.
8. 『講座 世界の先住民族 第6巻 ヨーロッパ』(原 聖/庄司博史 (編)) 明石書店 (担当: 共著、範囲: フリジア人) 2005: 120-137.
9. 『世界のことば・辞書の辞典ヨーロッパ編』(石井米雄 (編)) 三省堂 (担当: オランダ語、アイスランド語) 2008: 326-341, 360-376.
10. 『事典 世界のことば141』(梶 茂樹 (編)) 大修館書店 (担当: フリジア語) 2009: 448-451.
11. 『ニューエクスプレススペシャル・ヨーロッパのおもしろ言語』(町田 健 (編)) 白水社 (担当: フリジア語) 2010: 68-87.
12. 『言語研究の諸相』(北海道大学文学研究科言語情報学講座編) 北海道大学出版会 (担当: オランダ語研究の歴史と言語規範の成立) 2010: 183-252.
13. *Twenty-Nine Smiles for Alastair (Estrikken/Ålstråke 94)* (Jarich Hoekstra (Hrsg.)) Abteilung für Frisistik/Nordfriesische Wörterbuchstelle Christian-Albrechts-Universität zu Kiel (担当: Die *be*-Verben im Westerlauwersschen Friesisch) 2013: 251-265.
14. 『講座ドイツ言語学 第2巻 ドイツ語の歴史論』(新田春夫 (編)) ひつじ書房 (担当: 語順の変遷—ゲルマン語類型論の視点から) 2013: 37-64.
15. 『日本語大事典』(佐藤義武/前田富祺 (監修)) 朝倉書店 (担当: アイスランド語、ゲルマン諸語、スウェーデン語、ドイツ語、ノルウェー語) 2014.
16. 『世界の文字事典』(庄司博史 (編)) 丸善出版 (担当: オランダ語、ドイツ語) 2015: 32-35, 60-63.
17. 『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための65章』(小澤 実/中丸禎子/高橋美野梨 (編)) 明石書店 (担当: アイスランド語の歩み; アイスランド語はどんな点でユニークか; フェーロー語について) 2016: 289-301.

18. 『情報科学と言語研究』(加藤重広/佐藤知己(編))現代図書(担当:アイスランド語研究の歴史と語規範の形成)2016:195-237.
19. 『エッタとサガ』(谷口幸男(著))新潮社(担当:解説)2017:287-302.
20. *Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo* (Yoshiyuki, Muroi (Hrsg.)) München: iudicium (担当:共編者 Sektion 7: Konvergenz und Divergenz: Sprache in der Geschichte und in der Gegenwart) 2021: 805-857.
21. 『世界の公用語事典』(庄司博史(編))丸善出版(担当:オランダ語)2022:268-273.

*論文等

1. 「Gottfriedの“Tristan”における中高ドイツ語動詞接頭辞 GE-の研究—語彙・文法・文体」『ドイツ文学』72. (日本独文学会)1984:96-110. (第25回ドイツ語学文学振興会奨励賞受賞)
2. Die Struktur der grammatischen Kategorien im Deutschen. Ansatz zu einer Typologie der grammatischen Bedeutung. 『東京大学教養学部外国語学科研究紀要 ドイツ語学文学論集』32 (1). 1984:75-107.
3. 「ドイツ語文法範疇の構造—文法的意味のタイポロジー」『日本独文学会ドイツ語教育部会会報』25. (日本独文学会教育部会)1984:39-43.
4. 「スウェーデン語に与えたドイツ語の影響」『東京大学教養学部附属言語文化センター紀要』4. 1984:1-24.
5. Zur semantischen Verschiedenheit der Adjektive im Deutschen und Japanischen. 『東京大学教養学部教養学科紀要』16. 1984:61-81.
6. 「文法性とシンタグマ表示—ゲルマン語の歴史と類型」『東京大学教養学部外国語学科研究紀要 ドイツ語学文学論集』33 (1). 1985:23-95.
7. 「最近の動詞意味論研究における Aktionsart の意義—日独語対照研究のために」『日独両語の対照研究に基づく基本動詞の統語論的意味論的総合記述—二言語辞書のために(日独対照研究グループ 東京大学教養学部ドイツ語教室内)1986:17-32.
8. 「NGDA か NADG か」『ドイツ語教育部会会報』32. (日本独文学会)1987:47-51.
9. Grammatische Relationen und Satzgliedhierarchie im Deutschen und Japanischen. *Energieia* 14. (ドイツ文法理論研究会)1988:83-110.
10. 「ゲルマン語類型論の新しい展開—文法性の問題を中心に」『ドイツ語教育部会会報』35. (日本独文学会)1989:40-47.
11. 「現代アイスランド文学作品集(1)—グヴズムンドゥル・フリジヨウンソン『古い干し草』、ハルドウル・ラハスネス『リリアーネーブカドネーサル・ネーブカドネーサルソンの生と死の物語』、スヴァーヴァ・ヤーコブスドゥフティル『鏡をもつ女』」『ノルデン』28. (ノルデン刊行会)1991:27-65.
12. 「A. ヴェイネン:オランダ語歴史文法における構造的要因 (A. Weijnen: *Structurele factoren in de historische grammatica van het Nederlands*. Assen. Van Gorcum. 1966) (翻訳・訳注)」『ノルデン』29. (ノルデン刊行会)1992:71-114.
13. 「現代アイスランド文学作品集(2)—ヨウン・トレイスティ『二人の姉妹』、ハルドウル・ラハスネス『新しいアイスランド』、ステイトン・ステイナル『*It's a Long Way*』、オウラヴル・ヨウハン・シーグルソン『手』」『ノルデン』29. (ノルデン刊行会)1992:21-56.

14. 「北フリジア語モーリング方言 (1) 文法—V. Tams Jörgensen: *Kort späkeliir foon dat mooringer frasch* 訳注』『北海道大学文学部紀要』40 (3). 1992 : 65-162.
15. 「言語接触とゲルマン語の類型 (1) —フリジア語群を中心に」『独語独文学研究年報 青柳謙二教授退官記念号』20. (北海道大学ドイツ語学・文学研究会) 1993 : 283-299.
16. Naar aanleiding van Hitoshi Kodama, *Fryske grammatika. Us Wurk. Tydskrift foar frisistyk* 42 (3-4). 1993: 103-114.
17. 「独和辞典へのヴァレンツ理論の応用について」『ドイツ語教育部会会報』43. (日本独文学会) 1993 : 46-51.
18. 「言語接触の諸相—言語接触とゲルマン語の類型」『北海道大学言語文化部紀要』24. 1993 : 22-23.
19. 「現代アイスランド文学作品集 (3) —グンナル・グンナルソン『消えた教会』、クリストマン・グヴズムンソン『夏の夜』、ハルドウル・ステーファウンソン『夢売り』、グヴズベルグ・ベルグソン『ランチボックスを持つ女』」『ノルデン』30. (ノルデン刊行会) 1993 : 21-57.
20. 「言語接触とゲルマン語の類型 (2) —フリジア語群を中心に」『独語独文学科研究年報』21. (北海道大学ドイツ語学・文学研究会) 1994 : 1-6.
21. 「フリジア人とフリジア語」『基礎ドイツ語』(三修社) 45 (2). 1994 : 72-73.
22. 「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」『北海道大学文学部紀要』44 (1). 1995 : 37-81.
23. 「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」『北海道大学文学部紀要』44 (2). 1995 : 43-111.
24. 「K. リングゴー：デンマーク語方言概説 (K. Ringgaard: *Danske dialekter. En kortfattet oversigt*. København. Akademisk Forlag. 1973²) (翻訳・訳注)」『ノルデン』32. (ノルデン刊行会) 1995 : 31-105.
25. 「現代アイスランド文学作品集 (4) —ヨウン・ダーン『妖精の子 (アウルヴル)』」『ノルデン』32. (ノルデン刊行会) 1995 : 33-49.
26. 「現代アイスランド文学作品集 (5) —ソルギルス・ギャトランディ『教会詣で』、ソウル・ベルグソン『ジャンプ』、ヤーコブ・ソーラレンセン『愛のたより』、ヤーコビナ・シーゲルザルドウフティル『語り得ぬ思い出』、ハンネス・ピェトゥルソン『峡谷』」『ノルデン』33. (ノルデン刊行会) 1996 : 17-59.
27. 「西フリジア語文法記述の問題点」『北海道大学文学部紀要』44 (3). 1996 : 41-107.
28. 「西フリジア語の文法構造—冠詞、名詞、形容詞」『北海道大学文学部紀要』45 (1). 1996 : 21-81.
29. 「アイスランド民謡から 6つの歌曲 (シグヴァルディ S. カルダロウンス作曲)」『日本アイスランド学会会員公刊論集』14. 1997 : 153-158.
30. 「西フリジア語の文法構造—一代名詞」『北海道大学文学部紀要』45 (2). 1997 : 79-176.
31. 「ゲルマン語類型論から見た西フリジア語の「割れ」(Brechung) と「短母音化」について」『ドイツ文学』99. (日本独文学会) 1997 : 17-27.
32. 「西フリジア語の文法構造—数詞、副詞、der」『北海道大学文学部紀要』45 (3). 1997 : 171-246.
33. 「西フリジア語の文法構造—前置詞と後置詞 (1)」『北海道大学文学部紀要』46 (1). 1997 : 23-62.
34. Ohne Identität kein glückliches Leben. Interview mit Professor Makoto Shimizu. *Nordfriesland. Zeitschrift für Kultur, Politik, Wirtschaft* (Nordfriisk Instituut) 124. 1998:

- 44-47.
35. 「西フリジア語の文法構造—前置詞と後置詞 (2)」『北海道大学文学部紀要』46 (2). 1998 : 41-64.
 36. 「西フリジア語の文法構造—接続詞」『北海道大学文学部紀要』46 (3). 1998 : 65-121.
 37. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (1)」『北海道大学文学部紀要』47 (2). 1998 : 21-97.
 38. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (2)」『北海道大学文学部紀要』47 (3). 1998 : 53-72.
 39. 「フリジア語群の変容と言語研究—多言語使用におけるアイデンティティー」『京都ドイツ語研究会会報』13. 1999 : 6-10.
 40. 「ゲルマン語類型論の視点—連続性と離散性の概念を中心に」『佐藤俊一編・連続性概念による言語モデルの再構築—ドイツ語学の諸相から』(平成8~9年度科学研究費補助金成果報告書) 1999 : 123-137.
 41. 「De Plattduitsche Baibel に出会うまで」『ノルデン』(ノルデン刊行会) 36. 1999 : 81-98.
 42. 「標準オランダ語の発音とその背景」『ノルデン』36. (ノルデン刊行会) 1999 : 15-72.
 43. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (3)」『北海道大学文学部紀要』47 (4). 1999 : 89-124.
 44. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (4)」『北海道大学文学部紀要』48 (1). 1999 : 21-55.
 45. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (5)」『北海道大学文学研究科紀要』101. 2000 : 93-129.
 46. 「低地ドイツ語聖書の伝統と De Plattduitsche Baibel (oversettet von Friedrich Wille 1997)」『ドイツ文学』104. (日本独文学会) 2000 : 189-191.
 47. 「西フリジア語の名詞抱合の特徴と抱合動詞の形成」『日本言語学会第121回大会予稿集』2000 : 19-23.
 48. 「ゲルマン語類型論の構想」『京都ドイツ語研究会会報』14. 2000 : 57-70.
 49. 「屈折語尾か後接語か—北ゲルマン語定冠詞の類型論的考察」『日本アイスランド学会会報』20. 2001 : 36-45.
 50. 「接語化、屈折、語形成—北ゲルマン語の後置定冠詞を中心に」『日本言語学会第122回大会予稿集』2001 : 149-154.
 51. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』30 (9). (大修館書店) 2001 : 120.
 52. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』30 (10). (大修館書店) 2001 : 118-124.
 53. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』30 (11). (大修館書店) 2001 : 112-128.
 54. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』30 (12). (大修館書店) 2001 : 110-116.
 55. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』30 (13). (大修館書店) 2001 : 172-178.
 56. 「チャレンジコーナー」『月刊言語』31 (1). (大修館書店) 2002 : 112-118.
 57. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (6)」『北海道大学文学研究科紀要』108. 2002 : 23-100.
 58. 「フリジア語群の三つの生態と多言語使用」『ドイツ文学』108. (日本独文学会) 2002 : 45-58.
 59. 「チャレンジコーナー [2001年] 12月号出題」『月刊言語』(大修館書店) 31 (2). 2002 : 112-118.
 60. 「書評：河崎 靖/クレインス・フレデリック (著)『低地諸国 (オランダ・ベルギー) の言語事情—ゲルマンとラテンの間で』」『ドイツ文学』110. (日本独文学会) 2003 : 294-296.
 61. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (7)」『北海道大学文学研究科紀要』111. 2003 : 51-94.
 62. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (8)」『北海道大学文学研究科紀要』112. 2004 : 1-103.
 63. 「西フリジア語の文法構造—動詞 (9)」『北海道大学文学研究科紀要』113. 2004 : 65-108.
 64. 「西フリジア語の文法構造—あとがき、参考文献、目次」『北海道大学文学研究科紀要』

114. 2004 : 63-113.
65. 「フリジア語とフリジア人について」『独語独文学研究年報 植木廸子教授定年退官記念号』31. (北海道大学ドイツ語学・文学研究会) 2004 : 82-98.
66. 「ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述—西ゲルマン語類型論に向けて」(北海道大学 科研費報告書) 2005.
67. 「言語規則と普遍性：フリジア語と関連言語における名詞抱合、品詞転換、逆成」『ドイツ文学』127. (日本独文学会) 2006 : 49-66. (第5回日本独文学会賞受賞)
68. Het Nederlands in Japan. *Ons Erfdeel. Vlaams-Nederlands cultureel tijdschrift* 49 (2). 2006: 239-246.
69. Tussen academische en dagelijkse taalvaardigheid: Het Nederlands en het Fries in Japan door vier eeuwen heen. 『北海道大学文学研究科紀要』123. 2007 : 55-72.
70. 「ドイツ語、オランダ語、フリジア語の接頭辞動詞と be- 動詞」*Energiea* 32. (ドイツ文法理論研究会) 2007 : 57-78.
71. Jürgen Andersen. Der erste Schleswiger in Japan. *Nordfriesisches Jahrbuch* (Nordfriisk Instituut) 44. 2008: 7-18.
72. Besprek: Jan Popkema (2006). Grammatica Fries. De regels van het Fries (Utrecht/ Leeuwarden). *It Beaken. Tydskrift fan de Fryske Akademy* 69(3/4). 2008 142-149.
73. 「北欧アイスランド文学の歴史 (1) —「リームル」からロマン派まで」『北海道大学文学研究科紀要』128. 2009 : 139-194.
74. 「北欧アイスランド文学の歴史 (2) —自然主義から新ロマン派まで」『北海道大学文学研究科紀要』129. 2009 : 1-62.
75. 「アイスランド語研究と辞書編集の歴史」『日本アイスランド学会会報』28. 2009 : 1-34.
76. 「北欧アイスランド文学の歴史 (3) —ハルドウル・ラハスネスから20世紀末まで」『北海道大学文学研究科紀要』130. 2010 : 69-124.
77. 「ゲルマン語の歴史と構造 (1) —歴史言語学と比較方法」『北海道大学文学研究科紀要』131. 2010 : 1-40.
78. 「アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点 (1)」『北海道大学文学研究科紀要』132. 2010 : 1-44.
79. 「アイスランド語の音韻とカナ表記の問題点」『北海道大学文学研究科紀要』133. 2011 : 57-77.
80. 「ゲルマン語の歴史と構造 (2) —ゲルマン祖語の特徴」『北海道大学文学研究科紀要』134. 2011 : 31-67.
81. 「ゲルマン語の歴史と構造 (3) —ゲルマン祖語の特徴 (2)、古ゲルマン諸語 (1)」『北海道大学文学研究科紀要』135. 2011 : 41-88.
82. 「日本アイスランド学会30年の歩み」(大宮康一/櫻井 健/清水 誠) 『日本アイスランド学会会報』30. 2011 : 31-46.
83. 「森田貞雄先生のゲルマン語研究」『日本アイスランド学会会報』31. 2012 : 29-33.
84. 「ゲルマン語の歴史と構造 (4) —古ゲルマン諸語 (2)」『北海道大学文学研究科紀要』136. 2012 : 53-101.
85. 「ゲルマン語の歴史と構造 (5) —現代ゲルマン諸語」『北海道大学文学研究科紀要』137. 2012 : 23-83.
86. 「ゲルマン語類型論から見たドイツ語の語順変化 (1) —名詞句成分」『北海道大学文学研究

- 科紀要』138. 2012 : 1-29.
87. 「ゲルマン語形容詞強・弱変化の非文法化」『歴史言語学』1. 2012 : 39-71.
 88. 「ドイツ語とゲルマン語の枠構造をめぐって」*Sprachwissenschaft Kyoto* 12. (京都ドイツ語学研究会) 2013 : 82-85.
 89. 「西フリジア語の接頭辞動詞と be-動詞について」『北海道大学文学研究科紀要』140. 2013 : 57-97.
 90. 「アイスランド語の言語学用語 (1) —現代アイスランド語文法記述の基礎的作業」『日本アイスランド学会会報』33. 2014 : 1-12.
 91. 「ゲルマン語類型論から見たアイスランド語の音韻と正書法」『日本アイスランド学会会報』33. 2014 : 15-17.
 92. 「未知の言語世界への旅」『ドイツ文学』(日本独文学会) 150. 2015 : 1-11.
 93. 「アイスランド語の言語学用語 (2) —現代アイスランド語文法記述の基礎的作業」『日本アイスランド学会会報』34. 2015 : 1-19.
 94. 「書評：朝倉純孝著『オランダ語辞典』」『ドイツ文学』152. (日本独文学会) 2016 : 194-200.
 95. Besprek: Hitoshi Kodama, *Japansk-Frysk wurdboek* (jap. Nihongo-furijiago jiten). *Us Wurk. Tydskrift foar frisistyk* 66 (3-4). 2017: 163-168.
 96. 「ゲルマン語形容詞変化の歴史的発達 (1) —ゴート語、ドイツ語、北ゲルマン語」『北海道大学文学研究科紀要』155. 2018 : 1-54.
 97. 「Fryske Akademy とフリジア語の擁護」『独語独文学研究年報 山田貞三教授定年退職記念号』44. (北海道大学ドイツ語学・文学研究会) 2018 : 105-126.
 98. 「ゲルマン語形容詞変化の歴史的発達 (2) —西ゲルマン語 (1)」『北海道大学文学研究科紀要』156. 2019 : 1-35.
 99. 「ドイツ語から見たゲルマン語—名詞の性、格の階層と文法関係」『北海道大学文学院研究紀要』158. 2019 : 37-76.
 100. 「ゲルマン語形容詞変化の歴史的発達 (3) —西ゲルマン語 (2)」『北海道大学文学研究院紀要』159. 2019 : 45-80.
 101. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (2) —属格と所有表現」『北海道大学文学研究院紀要』160. 2020 : 37-76.
 102. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (3) —名詞の性の発達と複数形の形成」『北海道大学文学研究院紀要』162. 2021 : 35-101.
 103. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (4) —冠詞と指示詞」『北海道大学文学研究院紀要』163. 2021 : 1-22.
 104. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (5) —人称代名詞」『北海道大学文学研究院紀要』164. 2021 : 19-41.
 105. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (6) —3人称代名詞、再帰代名詞、所有代名詞」『北海道大学文学研究院紀要』165. 2021 : 31-60.
 106. 「谷口幸男先生と北歐アイスランド研究」『日本アイスランド学会会報』40. 2021 : 14-21.
 107. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (7) —2人称代名詞と関連表現」『北海道大学文学研究院紀要』166. 2022 : 1-27.
 108. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (8) —不定詞と分詞」『北海道大学文学研究院紀要』167. 2022 : 1-30.

109. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (9) —動詞の強変化と弱変化、ウムラウト、人称語尾」『北海道大学文学研究院紀要』168. 2022 : 1-35.
110. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (10) —強変化動詞、過去現在動詞、母音交替」『北海道大学文学研究院紀要』169. 2023 : 1-40.
111. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (11) —過去形と完了形 : 時制、アスペクト、話法」『北海道大学文学研究院紀要』170. 2023 : 1-33.
112. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (12) —進行形と不在構文 (付 : 正誤表)」『北海道大学文学研究院紀要』171. 2023 : 1-38.
113. 「ドイツ語から見たゲルマン語 (13) —文の構造 (付 : 正誤表2)」『北海道大学文学研究院紀要』172. 2024 : 1-61.

*その他

1. 「ゲルマン語を芋づる式に釣り上げる」『月刊言語』30 (6). (大修館書店) 2001 : 56-59.
2. 「ことばというパスポート (31) フリジア語」『月刊言語』32 (7). (大修館書店) 2003 : 88-91.
3. Fryske groetenis út Japan. *Nijsbrief. Mienskiplike útjefte fan IT FRYSK BOUN OM UTENS*. 18. (Bovensmilde/Ljouwert/Amersfoart: Selskip foar Fryske tael en skriftekennisse) Blommemoanne 2003: 9-10.
4. 「あとがき」『独語独文学研究年報 植木通子教授退官記念号』31. (北海道大学ドイツ語学・文学研究会) 2004 : 342.
5. 「受賞の弁」『ドイツ文学 別冊』2008年秋号 (日本独文学会) 2008 : 45. (第5回日本独文学会賞受賞に際して)
6. 「フリジア語との出会い Wie ich Friesisch kennen lernte」*Echos* (Deutscher Akademischer Austauschdienst, Außenstelle Tokyo) 2008: 150-151.
7. 「熊坂 亮君のこと」『ひろの』49. (財団法人ドイツ語学文学振興会) 2009 : 5. (第49回ドイツ語学文学振興会奨励賞受賞に際して)
8. 「西出佳代さんのルクセンブルク語」『ひろの』51. (財団法人ドイツ語学文学振興会) 2011 : 7. (第51回ドイツ語学文学振興会奨励賞受賞に際して)
9. 「受賞の弁」『ドイツ文学 別冊』2014年秋号 (日本独文学会) 2014 : 49. (第11回日本独文学会賞受賞に際して)
10. 「2022年日本独文学会秋季研究発表会を終えて」(日本独文学会 HP) 2022.
11. 「学生もすなる博論を」*Laterne* 128. (同学社) 2022 : 4-7.
12. 「覚知頌春君と低地ドイツ語研究」『ひろの』63. (公益財団法人ドイツ語学文学振興会) 2023 : 9. (第63回ドイツ語学文学振興会奨励賞受賞に際して)

*メディア報道

1. Friesisch in Japan. *Nordfriesland. Zeitschrift für Kultur, Politik, Wirtschaft* 95. (Nordfriisk Instituut) September 1991: 30.
2. Friesischer Flirt und seine Folgen. Ein japanischer Professor lehrt seinen Studenten die Sprache der deutschen Westküste. *Husumer Nachrichten*. 3. Januar 1992. (再録 : *DAAD Letter. Hochschule und Ausland*. Nr. 1. März. 1992. 1992: 29)
3. Japanner op de Hollands-Friese toer. *Nederlands Dagblad*. 10. februari 1994.

4. Te folle flaters yn wurk Kodama. *Leeuwarder Courant*. 25. februari 1994.
5. Japaner schreibt friesisch-japanische Grammatik. „Kort sprâkeliir“ auf japanisch. *Kieler Nachrichten*. 11. Juni 1994.
6. Frysk yn Japan (Anne Dykstra). *Taal* (Ljouwert: afûk), maart 2003: 38.
7. Frysk hat sintrale posysje yn Japanske taalwittenskip. *Leeuwarder Courant*. 10. september 2003.
8. Vom Ende des zweiten Weltkriegs bis zur Gegenwart: Kontakte auf Hochschulebene und im wissenschaftlichen Bereich (Janocha, Peter: *Schleswig-Holstein und Japan von den Anfängen bis zur Gegenwart*. Neumünster: Wachholtz. 2006: 156-158)
9. It (nije) Boun fen Fryske Selskippen bûten Fryslân set út ein (Hâns J. Weijer (einred.) *Friezen yn 'e Frjemdte*. In *skiednis fan Friezen om utens*. Ljouwert: Elikser. 2011: 79f.)

*学術貢献活動

1. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：多和田葉子 *Wo Europa anfängt* オランダ語訳 審査・評価 (Yoko Tawada: *Is Europa Westers?*) 2006. 12~2007. 1.
2. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：紫式部『源氏物語』オランダ語訳 審査・評価 (Murasaki Shikibu: *Het verhaal van Genji I-II*, vert. Jos Vos, 2013 Amsterdam: Athenaeum. Polak & Van Gennep) 2011. 12.~2012. 1.
3. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：東野圭吾『聖女の救済』オランダ語訳 審査・評価 (Keigo Higashino: *Redding van een heilige*, vert. Luk van Haute, 2013 Breda: De Geus) 2011. 12.~2012. 1.
4. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：『近代日本文学作品集』オランダ語訳 審査・評価 (*Liefdesdood in Kamara en andere verhalen*, vert. Luk van Haute, 2014 Amsterdam/Antwerpen: Uitgeverij Atla Contact) 2012. 12.~2013. 1.
5. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：夏目漱石『こころ』オランダ語訳 審査・評価 (Soseki Natsume: *Kokoro. De wegen van het hart*, vert. Luk van Haute, 2014 Amsterdam: Lebowski Publishers) 2012. 12.~2013. 1.
6. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：東野圭吾『真夏の方程式』オランダ語訳 審査・評価 (Keigo Higashino: *Afrekening in midzomer*, vert. Luk van Haute, 2014 Breda: De Geus) 2012. 12.~2013. 1.
7. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：五味川純平『人間の条件』オランダ語訳 審査・評価 (Junpei Gomikawa: *Menselijke voorwaarden*, vert. Jacques Westerhoven, 2018 Amsterdam: Uitgeverij Van Ooorschot) 2016. 12.~2017. 1.
8. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：柴崎友香『春の庭』オランダ語訳 審査・評価 (Tomoka Shibasaki: *Lentetuin*, vert. Luk van Haute, 2020 Amsterdam: Zirimiri Press) 2018. 12.~2019. 1.
9. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：小川洋子『密やかな結晶』オランダ語訳 審査・評価 (Yoko Ogawa: *De geheugenpolitie*, vert. Luk van Haute, 2021 Amsterdam: Uitgeverij Cossee) 2018. 12.~2019. 1.
10. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：柳 美里『JR 上野駅公園口』オランダ語訳 審査・評価 (Miri Yu: *Station Tokio Ueno*, vert. Geert van Bremen, 2022 Breda: De Geus) 2021. 12.~2022. 1.

11. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：川上未映子『夏物語』オランダ語訳 審査・評価 (Mieko Kawakami: *Borsten en eitjes*, vert. Maarten Liebrechts, 2022 Amsterdam: Uitgeverij Podium) 2021. 12.~2022. 1.
12. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：吉田修一『パークライフ』オランダ語訳 審査・評価 (Shuichi Yoshida: *Park Life*, vert. Luk van Haute, 2023 Amsterdam: Zirimiri Press) 2022. 12.~2023. 1.
13. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：川上未映子『すべて真夜中の恋人たち』オランダ語訳 審査・評価 (Mieko Kawakami: *Alle geliefden van de nacht*) 2023. 12.~2024. 1.
14. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：川上未映子『黄色い家』オランダ語訳 審査・評価 (Mieko Kawakami: *Het gele huis*) 2023. 12.~2024. 1.
15. 国際交流基金翻訳出版助成プログラム：八木詠美『空苺手帳』オランダ語訳 審査・評価 (Emi Yagi: *Het lege groeiboekje*) 2023. 12.~2024. 1.

***科学研究費補助金**

1. ゲルマン語類型論から見た北フリジア語の特徴—モーリング方言を中心に (奨励研究 (A)) 1992. 4.~1993. 3.
2. 大陸部北海沿岸の西ゲルマン語相互の言語接触と類型論的特徴の変化 (奨励研究 (A)) 1995. 4.~1996. 3.
3. 連続性概念による言語モデルの再構築—ドイツ語学の諸相から (基盤研究 (B)) 分担者、代表者：佐藤俊一) 1996. 4.~1998. 3.
4. ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述—西ゲルマン語類型論に向けて (基盤研究 (C)) 1998. 4.~2002. 3.
5. 西フリジア語文法記述のための最終的研究—ゲルマン語類型論の構築に向けて (基盤研究 (C)) 2002. 4.~2005. 3.
6. 西フリジア語文法—現代北海ゲルマン語の体系的構造記述 (研究成果公開促進費) 2005. 4.~2006. 3.
7. 北フリジア語の体系的構造記述—西フリジア語との比較と標準ドイツ語の影響を考慮して (基盤研究 (C)) 2005. 4.~2009. 3.
8. フリジア語研究のドイツ語学・英語学への貢献と研究成果の継承 (基盤研究 (C)) 2009. 4.~2014. 3.
9. ゲルマン語文法の試み—現代ゲルマン諸語全体の形態統語論に関する体系的記述 (基盤研究 (C)) 2014. 4.~2019. 3.
10. ゲルマン語類型論から見たドイツ語の新しい構造記述 (基盤研究 (C)) 2019. 4.~2024. 3.